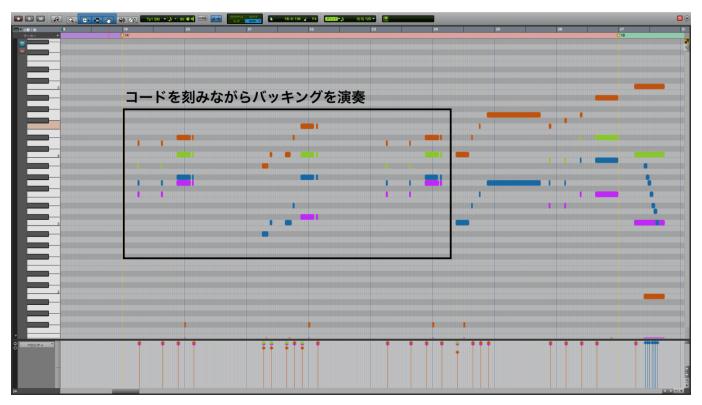
2-5 フォーム2:バッキング型



バッキング型の特徴

バッキング型は、ヴォーカルなどメインメロディの裏で伴奏的に演奏するフォーム。 ホーン全体でコードを形成しながら、リズムやパターンを刻むのが主な演奏スタイル。







©OTO×NOMA ©TEMPEST STUDIO



バッキング型アレンジのポイント

(1) コードをリズミカルに刻む

- ✓ 「伴奏」であるバッキング型は、コード感とリズム感の双方を担う
- ✓ ここでもスタッカートやマルカートを中心とした歯切れの良いフレーズを

② 統一感のあるリズムパターンを繰り返し演奏

- ✓ 統一感のあるリズムパターンを繰り返し演奏するのが基本
- ✓ これにより、安定したバッキング感を実現

③ ところどころオカズを入れるとなおよし

- ✓ リズムパターンの中にオカズを入れ込むのも効果的
- ✓ パターンを崩して変化をつけるイメージでオカズを入れよう



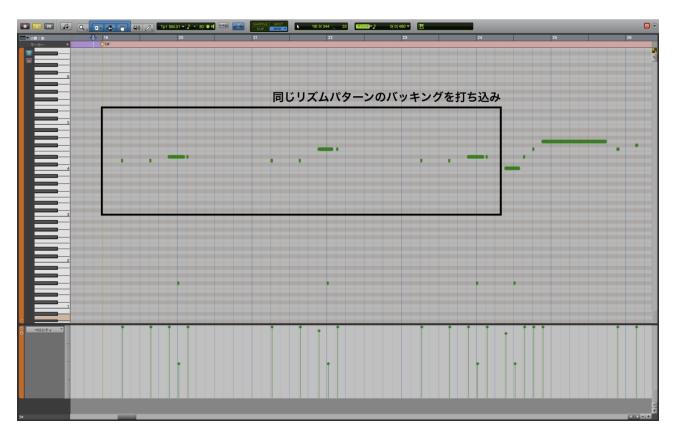
バッキング型アレンジの手順

- ① 1st Tpで基本的なリズムパターンを決める
- ② 2nd Tp、Sax、Tbでコードボイシングする
- ③必要に応じてオカズを入れる



① 1st Tpで基本的なリズムパターンを決める

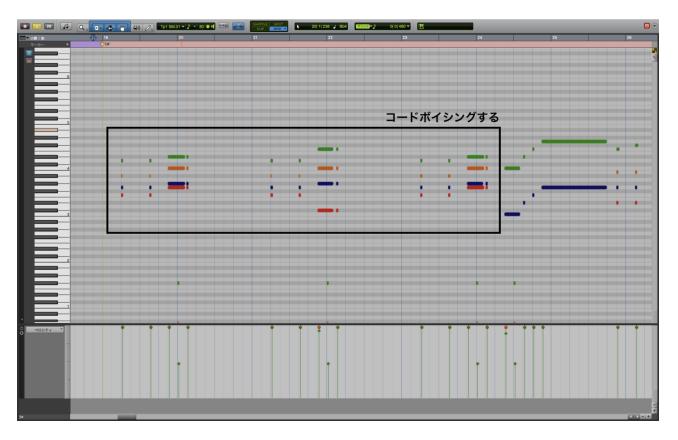
基本となるリズムパターンを1st Tpに打ち込んでいく。統一感のあるリズムパターンにするべく、まずは毎度同じリズムを繰り返すよう打ち込もう。





② 2nd Tp、Sax、Tbでコードボイシングする

1st Tpで決めたリズムパターンをベースに、2nd Tp、Sax、Tbにコピペして、コードボイシングをしていく。





③ 必要に応じてオカズを入れる

最後に、必要に応じてオカズを入れていく。単調に聞こえるポイントを補完する程度でOK。2回目、4回目など偶数回に手を入れると自然に仕上がる。

